

モニタリングの簡易手法について

1. 捕獲努力量（CPUE）と捕獲目撃（SPUE）の提案

屋久島全域における捕獲の実行を考えたとき、ヤクシカの増減などを推測しながら捕獲の効果を検証し、その結果を次回の捕獲計画に反映させる順応的管理を行います。

その際、今まで実施されてきた密度調査や植生被害調査などのモニタリングを、要所¹¹にて実行していく必要がありますが、予算や労力の関係から必ずしも充実したモニタリングを実行できるものではありません。

そこで、屋久島全体のヤクシカの増減、捕獲による効果の検証を粗々に得る簡易モニタリング手法として、捕獲努力量（CPUE）と捕獲目撃（SPUE）によるヤクシカの生息頭数の増減を推定する方法を提案します。

この捕獲努力量（CPUE）と捕獲目撃（SPUE）によるモニタリングは、捕獲に伴うシカの生息動向の把握のため、日本各地で実施されています。

これは、狩猟者が、狩猟期間中に、いつ（月日）、どこで（市町村、5km メッシュ番号）、何が（性別）、何頭捕獲されたか、あるいは目撃（捕獲数を含む）されたかについて、記録を残し、その記録を集計整理し、管理地域毎の捕獲努力量（CPUE：頭／人日）と捕獲目撃（SPUE：頭／人日）を算出するものです。

すなわち、民有地での有害駆除の捕獲であれば、現行の屋久島町への申請書（有害鳥獣捕獲実績報告書）に目撃欄を付加し、狩猟者は、捕獲ができてできなくても所定事項を記載の上屋久島町に申請し、狩猟種別、日別（努力量）、地区別、雌雄別、罠数・銃人工数別の捕獲数を集計して捕獲効率を分析するものです。

2. ヤクシカの日撃法の提案

屋久島では、国有林が島の森林面積の85%を占めますが、急峻な地形に阻まれてヤクシカの生息状況を把握するのが困難な状況です。

現在、国有林内では屋久島森林管理署、屋久島森林環境保全センターによる、林道沿いへのくくり罠の設置による捕獲が行われています。そして、定められた場所（多少の変動はあるが）にくくり罠を連続して設置することによって、ヤクシカの生息情報を知るうえでの重要なデータの収集が行われています。

しかし、罠の設置が限られた地域での情報であり、屋久島全域、特に奥岳における情報を得る目的から、目撃法によるデータの収集が有効であるものと判断されます。

そこで、国有林での作業者や研究者、一般の山岳ガイドなどを対象としたヤクシカの日撃情報を収集するアンケート調査を提案します。

アンケート調査は、国有林での作業者のほかに、入林許可等（入林許可証や林道通行許可等）の申請があった際に、アンケートの協力を求めるとともに、山岳ガイドに協力を呼びかけ、エコツアの際に目撃した情報（目撃しなくても記載する）提供を呼びかけるものです。

アンケート調査の事例を表-1に示します。

表-1 ヤクシカを目撃情報を収集するアンケートの例（案）

ヤクシカを目撃に関するアンケート調査のお願い

屋久島では近年全域でヤクシカの個体数が増加し、屋久島の貴重な自然環境に重大な影響を与える可能性がでてきています。

ヤクシカを適正に保護管理するため、国有林を利用される皆様にヤクシカの生息情報に関するアンケート調査を実施しております。

お手数ではございますが、貴重な屋久島の自然環境及びヤクシカの保護管理のためにご協力をお願いいたします。

所属及び氏名：

年 月 日	確認地区	個 体 数				
年 月 日		雄： 個体、雌： 個体、子： 個体、不明： 個体				
年 月 日		雄： 個体、雌： 個体、子： 個体、不明： 個体				
年 月 日		雄： 個体、雌： 個体、子： 個体、不明： 個体				
年 月 日		雄： 個体、雌： 個体、子： 個体、不明： 個体				
年 月 日		雄： 個体、雌： 個体、子： 個体、不明： 個体				

（注）確認地区は、基本的には林班名（わからない場合は林道名または管理計画メッシュ名）を記載してください。なお、雌雄の区別がつかない場合は不明欄に個体数のみを記載してください。

